

RCEP: は地域貿易を 年間約 9.5 兆円押し上げる可能性

- 共通の原産地規則(RoO)導入の効果大

17 November 2020

GEORGES DIB
Economist
Georges.dib@eulerhermes.com

FRANÇOISE HUANG
Senior Economist
Francoise.Huang@eulerhermes.com

ANITA POULOU
Economic Research Assistant

東アジア地域包括的経済連携(RCEP)は、地政学的、象徴的意義の観点から、極めて重要なイニシアティブです。多国間主義と調和を実現し、さらなる多国間貿易体制を推進しようという、アジア太平洋地域参加国へのコミットメントを明確に示す、広範囲経済連携協定です。ASEAN10 各国、オーストラリア、中国、日本、ニュージーランド、韓国にまたがる RCEP は、**世界の GDP と人口の約 30%**を占めており、この 2 点において、**世界最大の貿易協定**です。これはまた、中国を含む初の多国間自由貿易協定であり、同国の双循環戦略の「国際循環」部分にあたると言われています。米国はここ数年、保護主義的貿易政策を強めていますが、この協定により、アジア太平洋地域における中国の影響力がどのように高まっていくか、注目に値します。

経済的観点からみると、RCEP の全体的な影響は、少しずつ時間をかけて広がっていくものと考えられます(RCEP は、これまで自由貿易協定を締結したことのない中国と日本、日本と韓国の二国関係を含んでいることから、そのように推察します)。

中国・日本・韓国が、他の加盟国よりも大きな恩恵を受ける可能性があります。一方、RCEP は主として、ASEAN 諸国とそのパートナー国との間の既存の自由貿易協定を統合し、さらに推進させていくものです。実際、ASEAN 諸国が RCEP パートナー国からの輸入に対して課している平均関税率は、2005 年の 4.9%(ASEAN 諸国の輸入シェアで加重平均しない場合は 10.3%) から、現在は既に 1.8%(同 3.2%) に下がっています。

より重要なのは、RCEP が共通の原産地規則(RoO)を導入したことで、非関税障壁を引き下げることが期待される点でしょう。

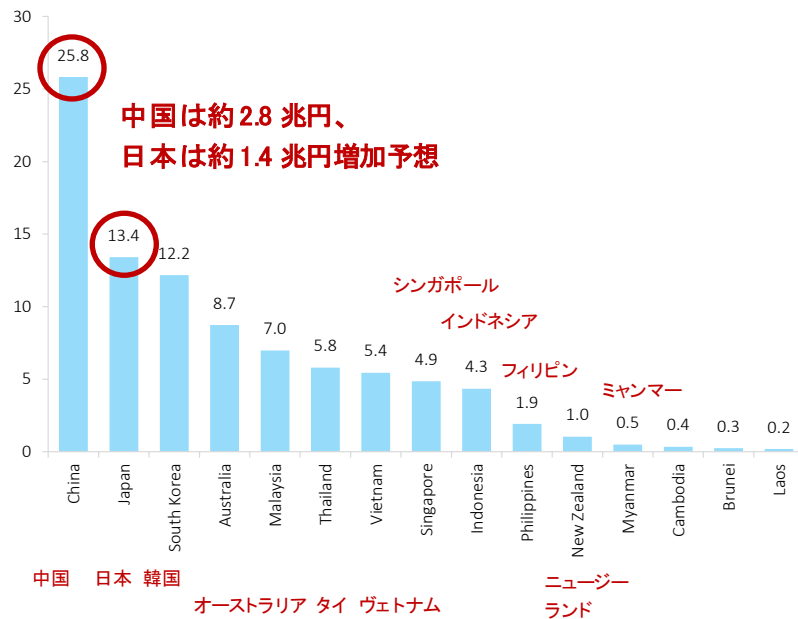
つまり、関税上の特惠待遇が適用されるための条件に照らしながら、現地調達率基準をうまく調整させることによって、非関税障壁の引き下げが見込めるという点です。

現在のところ、各地域 FTA はそれぞれ自らの RoO を定めています。RCEP は、加盟国間で同一の製品を出荷するために必要な RoO を RCEP 独自の原産地証明書だけに限定することによって、サプライチェーン管理を容易にし、効率化が期待されます。つまり、国際的なサプライチェーンをもつ企業にとって、取引コストが下がり、より安定的な貿易環境が生まれるのです。

文献によると、原産地規則のコストは輸出取引額の 1.4%から 5.9%です。当社の推計では、**共通の原産地規則は輸出コストを削減し、それによって加盟国間の商品輸出を年平均で約 9.5 兆円(900 億米ドル、2019 年の地域内商品貿易の 4%、世界の商品貿易の 0.5%)押し上げる可能性**があります。

結果として RCEP は、地域の貿易統合を強化するだけでなく、多国籍企業にとってのサプライ・チェーンのさらなる分散化・マルチ・ショアリングを促進し、つまり貿易促進効果の観点から、この地域をより魅力的なものにする可能性があり、特筆すべき取組と言えます。ただし農業などの「センシティブ」なセクターは現在のところ除外されており、また、サービス貿易の自由化は部分的な進展にとどまっています。今後のさらなる議論の進展が待たれます。

グラフ 1: RCEP の原産地規則(RoO)導入による、域内の年間貿易取引金額 増加予測 (単位: USD bn=10 億ドル)



Sources: UNCTAD, World Bank, Allianz Research

Note: Our results derive from estimations of average administrative cost savings related to the rule of origin, and import demand elasticities from academic papers including Cadot, Esteveadeordal, De Melo, Suwa-Eisenman (2002), Carrère and De Melo (2006).

These assessments are, as always, subject to the disclaimer provided below.

FORWARD-LOOKING STATEMENTS

The statements contained herein may include prospects, statements of future expectations and other forward-looking statements that are based on management's current views and assumptions and involve known and unknown risks and uncertainties. Actual results, performance or events may differ materially from those expressed or implied in such forward-looking statements.

Such deviations may arise due to, without limitation, (i) changes of the general economic conditions and competitive situation, particularly in the Allianz Group's core business and core markets, (ii) performance of financial markets (particularly market volatility, liquidity and credit events), (iii) frequency and severity of insured loss events, including from natural catastrophes, and the development of loss expenses, (iv) mortality and morbidity levels and trends, (v) persistency levels, (vi) particularly in the banking business, the extent of credit defaults, (vii) interest rate levels, (viii) currency exchange rates including the EUR/USD exchange rate, (ix) changes in laws and regulations, including tax regulations, (x) the impact of acquisitions, including related integration issues, and reorganization measures, and (xi) general competitive factors, in each case on a local, regional, national and/or global basis. Many of these factors may be more likely to occur, or more pronounced, as a result of terrorist activities and their consequences.

NO DUTY TO UPDATE

The company assumes no obligation to update any information or forward-looking statement contained herein, save for any information required to be disclosed by law.

本稿に関するお問合せ

ユーラーヘルメス信用保険会社 日本支店
〒120-0094 東京都千代田区尾井町4番1号
ニューオータニガーデンコート 10階
TEL : 03-3238-2560
Info_jp@eulerhermes.com
www.eulerhermes.co.jp